



組織だよ!!り 2014.5.28 NO415
健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。

2014年度支部長交流会開催

組合員の利用結集などについて交流

5月27日(火)支部長交流会を開催しました。久保田専務理事より、2014年度の重点課題について①9月1日開所予定の社会福祉法人虹の会・特養ホームわかばへの支援、②診療報酬・介護報酬に対応した事業の見直しと再編強化、地域包括ケア病棟など診療報酬改定にともなう病院入院機能の対応③仲間ふやしを重点に4課題をすすめる、地域まるごと健康づくりを広げるとりくみ④協同の力で憲法を守り、平和や社会保障の充実をすすめるとりくみ⑤医師確保など後継者育成のとりくみ強化⑥事業経営の組合員・職員参加を強め、経営改善をすすめていく⑦中長期計画の論議をはじめ⑧全国や近畿の医療生協、民医連と連帯して東日本大震災・原発事故被災者支援をすすめるなど8項目について報告されました。報告を受けて、「地域まるごと健康づくり」の面から、組合員の利用結集と健康づくりについて交流しました。東地区からは、小倉支部から大腸がん検診のとりくみについて報告されました。運営委員さんらの地域とのつながりの中で、毎年100件以上の検診にとりく



でしたが、最近では地域の開業医さんとの競合や高齢化進む中での検診を受けない方が増えてきた。南地区や河西地区からは、集団で健診を受けづらくなっている現状もあり、班やサークルで健診受診をすすめるながら、健診を受けているかどうかの把握をきまこまかくしていく必要があると報告されました。那賀地区では、おみや診療所で自治体健診を利用できるのは岩出市の住民だけという制限はあるが、年1回は検診を受けようと言葉に組合員の利用・結集を強めたいと報告されました。海南海草地区は、健康チェックを中心に班会やサークル活動などを通して、健康づくりへの結集、組合員参加を5年間すすめてきたことが報告され、海南市の健診を利用していくことが今後の課題となっている。那賀地区から、事業所健診の受け入れのように、組合員の健診についても特別の体制をとっていく必要がないかと意見がだされました。東中地区からは、地域で組合員比率が高い中、利用結集を強めるための広報、掲示板やビラなど大きな網を打つことも必要との意見がだされました。健康づくりチャレンジは、組合員にしばらず、他生協のとりくみに学びながら広げていくことは地域まるごと健康づくりのとりくみにつながるのではないかと意見も出され、7月には自治体訪問して、こうしたとりくみを宣伝したい。医療生協がもっている医療・介護のネットワークの強みを日常的に生かそうという意見もだされました。まとめで、組合員の利用結集では、健診などの目標をはっきりさせること、また健康ファイルの普及なども目標をもって運動化していくことが求められている。健診等では支部や、班で組織的にとりくみ、事業所の受け入れ体制などを議論していこうと決められました。第12回全日本民医連全国共同組織活動交流集会のとりくみ状況、特養ホームの建設状況、寄付金などについての報告も受け、交流会を終えました。参加者は39名でした。

河西地区のぞき支部総会

5/19(月)のぞき支部総会が河西地区組合員ホールで組合員19名、理事1名、職員1名の参加で開催されました。1部の総会では運営委員の小林さんより、活動を活発にさせるには担い手を増やす必要があると、運営委員、「健康とくらし」配布協力していただける方の紹介を訴えました。2部の懇談会では3月の神戸で開催された健康づくり学会に参加された梶谷さんより内容報告「全国のヘルアップチャレンジ、減塩運動、歯科の訪問診療等」をしていただき、今回初参加の方からは「そんな内容やったら私も行きたい」と早くも参加予約をいただきました。最後に同じく同学会に同行した峠より「ロコモを防ぐセーフティーウォーキング」を当日の資料から、体にやさしい歩き方と、筋トレ、ストレッチを紹介しました。



